



子どものみかた

子どもだけでなく、大人であっても、誰に対してでも、「どのよう」にその人を見らるか」「どのよう」にその人をとらえるか」によって、関わりやつながり方が変わってきます。それによって、その人に対する気持ちや行動が変わり、当然ながら結果も変わってくる場合があります。今回はひとつ具体的なたとえ話をしながらすすめていこうと思います。これから書く例は、これまで関わってきた子ども達のエピソードを、いくつかまぜ合わせた話です。皆さんがこのような子に出会ったとしたら、どのような印象をもちどのような子にとらえるでしょうか。傍線の部分に注目しながら考えてみてください。

①「Kさんは、①小さいころから人と同じように行動することが苦手、集団よりも一歩遅れて行動することがあります。」

②「でも、それでも②好きなお絵描きや工作の時間になると集中して取り組むことができ、本人の作品を認めてくれる友達がたくさんいました。小学校に入ると、③たまに難しい質問をして大人を困らせることもありました。新しい知識を得ていくことに喜びを感じていました。5年生になったころから、④「勉強がつまらない」と思うようになり、授業中にぼーっとしたり、「やりたくない」と参加を拒否するようになり、明らかにイライラしている日が増えました。こんな状態だったため、先生から注意を受けるようなことや友達と話が合わないと感じることが増えていきました。そして、⑤「だんだんと遅刻や欠席が増えていきました。」

③「難しいことを言うてくるこまじやくれた子、④態度の悪い関わりにくい子、⑤怠けてさぼっているだけ。」

①自分のペースがある子、②自分のことを表現できる子、③知的興味や関心が高い子、④学年の内容が本人の知的興味関心に合わず納得ができないでいる、⑤朝おなかや頭が痛くなるようになってきた。

極端な「みかた」になっていますが、事実は一つです。そして「みかた」によって、Kさんへの理解や関わりかた、対応の仕方が変わってきます。「困ったみかた」だけでは本人が何に困っている、どうしたらこの状況が解決できそうか、といったことにはつながっていきません。でも「強みからみる」とKさんへの理解を深めたうえで、「じゃあ何をしたらいいか、どんな手が打てそうか」と一緒に考えていくつながりがもてそうです。そうすることで、いい結果へのプロセスが歩みだせるのではないのでしょうか。いつでもどこでも、その子の「強みからみたみかた」ができるわけではありませんが、「みかた」を意識することで子どもの「味方」になっていけるといいですね。

困ったみかた

- ①みんなと同じにできない子、
- ②好きなことしかしない子、

図書館コーナー

◆中軽井沢図書館1月イベントのご案内

◎名誉館長 青木裕子朗読会
「雪の浅間」
福永 武彦 著
とき 1月8日(土)
14時から
多目的室(先着30名)

◎おはなしの会
とき 1月16日(日)
10時30分から
ところ 中軽井沢図書館2階
多目的室(先着20名)
詳しくは、図書館ホームページをご覧ください。

◆図書館友の会
「図書館研究会」
テーマ 「地域文学遺産」
とき 1月15日(土)
10時10分から
ところ 中軽井沢図書館2階
多目的室

新しい本が入りました!

| | |
|---------------------|-----------------------------|
| 黄金旅程 | 馳 星周 著 |
| 生を祝う | 李 琴峰 著 |
| 打ちのめされた心は | フランソワーズ・サガン 著 |
| はじめてでも美味しく作れる ロシア料理 | ヴィタリ ユシュマノフ 著 |
| エイモスさんがバスに乗りおけると | フィリップ・C・ステッド 文/エリン・E・ステッド 絵 |

【ホームページ】
<https://www.library-karuizawa.jp/>
※蔵書検索・予約ができます。利用してください。

【問い合わせ】 中軽井沢図書館
☎41-0850 FAX41-0851
※新型コロナウイルスの感染状況により、サービスを変更・中止する場合があります。